



# スナーク狩り

宮部みゆき著

**銃**、そして、その背後で燃え上がる復讐心——。この作品では銃が一貫して重要な役割を果たしており、登場人物たちは銃を通して自らの復讐心に答えを出すことになる。

関沼慶子は自分を裏切った元恋人を恨み、銃を持って彼の結婚披露宴に乗り込んだ。勤め先の客である慶子が銃を持っていることを知っていた織口邦男は、密かにある計画を実行に移す。しかし、この織口の行動は思いもよらない展開を呼び寄せる。そして、さまざまな人物を巻き込みながら、わずか半日の間に事態は怒濤のクライマックスを迎える——。

この作品は、宮部みゆきによる現代長編サスペンス小説で、「復讐」が一つの大きなキーワードになっている。復讐は許されないという現実と、抑えきれない復讐心。その間で板挟みになる人物の姿を通して、司法の不条理に直面した被害者の心理を浮き彫りにしている。

ここで一つ忘れてはならないのは、誰でもその人物のような境遇になりうるといことだ。もし自分がその人物の立場になってしまったら……。そう考えながら読むと、この作品はいつそう心に迫るものとなる。

また、この作品では登場人物たちの複雑な思いを精緻に描くために、絶妙なトリックが用いられている。

「かわいそうに」  
今まで誰も、こんな単純な同情の言葉を投げかけてくれなかった。堤防を壊す、たったひとつの小石は、こんなに素直で、こんなに簡単な言葉だったのだ。

文字でしか表せない、文字だからこそ表せるこの表現。同情の言葉をかけられて泣き出すという、言ってしまうほどそれだけのシーンが比喩表現によって魅

力が増し、ひととき光を放っている。また、それと同時に「かわいそうに」というありふれた台詞も、心に染み入るような印象的なものとなっている。このような描写がこの作品の随所にみられる。

裁判員制度が始まり、司法の世界にふれる機会が増えた今、「復讐」という言葉の意味を考えながら、衝撃のラストを楽しみにぜひ読んでほしい。

「我々は、被害者同士で殺し合い、傷つけあったような気がしますね」

(water)



宮部みゆき著  
光文社文庫  
ISBN :  
4-334-72409-2  
定価619円(税抜)



## まるごと トマトグラタン

今回はトマトを使ったおしゃれな洋風メニューです。焼かずにサラダとして食べてもおいしいですよ。(陸)

材料 (2個分)	
トマト	中2個
玉ねぎ	1/8個
ツナ	1/2缶
ゆで卵	1/2個
大葉	2枚
マヨネーズ	大さじ1
チーズ	適量

- ① トマトは上の方で切って中身をくりぬく。ツナはよく油を切り、玉ねぎ・ゆで卵・大葉はみじん切りにする。
- ② ツナ・玉ねぎ・ゆで卵・大葉を混ぜてマヨネーズで和え、それを中身をくりぬいたトマトに詰める。
- ③ チーズをのせてオーブントースターで焼き、チーズに焦げ目がついたらできあがり。



はみだし  
すてーじ

何でもいのでアドバイスをお願いします。(情報・院 亜斗)  
→とりあえず宮部さんの本を読んだらいいと思います。「スナーク狩り」の他にも「パーフェクト・ブルー」・「魔術はささやく」・「レベル7」・「火車」・「龍は眠る」・「理由」・「誰か」・「クロスファイア」・「模倣犯」がおすすです。(本当は全部紹介したい；編)